

長雨・日照不足に対する農作物の技術対策

令和 8 年 10 月 2 日

群馬県農政部野菜花き課

気象庁の観測データ（前橋市）によると、本年 9 月の降水量は 281.5mm で平年比 137%、日照時間は 52.3 時間で平年比 39%でした。

10 月以降も台風の発生や秋雨前線の影響が見込まれ、日照不足による農作物への影響が懸念されます。

このため、長雨・日照不足に対する農作物の栽培管理及び農業用施設の管理等について、以下の技術対策を参考にしてください。

I 普通作物

1 水稻

- (1) 既に収穫期となっているほ場では、天候回復後、ほ場及び稲の乾燥状況を見極めて収穫する。
- (2) 穂発芽や倒伏した部分は可能な限り別収穫とし、品質低下を防止する。
- (3) 冠水又は滞水したほ場では、速やかに排水するとともに、排水路及びけい畔の点検・補修を行う。
- (4) 高水分籾は速やかに乾燥調製を行う。ただし、急激な乾燥は避け、初めは通風により水分ムラの解消を図り、その後、穀温 40℃以下で乾燥する。
- (5) むかるみや倒伏条件下での高水分籾のコンバイン収穫作業は、傾斜地での転倒や、詰まったワラを取り除く際の巻き込まれ事故の危険が高まるため、安全確認を徹底する。

2 大豆

- (1) ほ場の排水溝や明きょを点検・整備し、速やかな排水に努め、湿害の発生防止を図る。
- (2) 冠水や浸水が発生した場合は、速やかに排水し、ほ場内の滞水を解消する。

II 工芸作物

1 コンニャク

- (1) 多雨による雨水や土砂等の流入防止のために、排水溝の設置や補修を行うとともに、必要に応じて土のう等を設置する。
- (2) 葉面が濡れた状態が続くと葉枯病や腐敗病の発生が助長されるため、登録農薬による適期防除に努める。
- (3) 発病葉及び発病株は速やかにほ場外へ持ち出し、適切に処分する。

2 タラノキ

- (1) 葉面が濡れた状態が続くとそうか病の発生が助長されるため、登録農薬による適期防除に努める。
- (2) そうか病の発病葉は早期に切り取り、ほ場外へ持ち出して適切に処分する。また、株間の通風を確保するため株の整理を行う。
- (3) 多雨による雨水や土砂等の流入防止のために、排水溝の設置や補修を行う。

Ⅲ 野 菜

- 1 多湿条件下では各種病害（トマト：葉かび病・灰色かび病、キュウリ：べと病・褐斑病、ナス：褐色腐敗病、イチゴ：炭そ病、ネギ：軟腐病・白絹病、キャベツ：軟腐病・黒腐病・菌核病、レタス：軟腐病・すそ枯病等）の発生が助長されるため、登録農薬による適期防除に努める。
薬剤散布にあたっては、作物が軟弱に生育している場合には薬害が発生しやすいため、日中の高温時を避け、朝夕の涼しい時間帯に散布する。
なお、窒素肥料の過剰施用は、病害の発生を助長するため適正施肥に努めるとともに、排水不良ほ場では排水溝等を整備し、湛水による病害の発生防止を図る。
- 2 茎葉が軟弱徒長し、草勢が低下している作物では、晴天時にリン酸、カリ、微量元素等を含む液肥を葉面散布するとともに、速効性肥料を少量ずつ追肥し、草勢の維持・回復を図る。
- 3 施設栽培では、被覆資材の汚れを除去し、光線透過率の向上を図る。あわせて、生育適温にあわせた換気を行い、多湿や日照不足による軟弱徒長を防止する。また、曇雨天が続いた後に急激に天候が回復し、強い日射を受けると、葉焼けや石灰欠乏症状等が発生することがあるため、かん水や一時的な遮光等により適正な温湿度管理を行い、生理障害の発生防止を図る。
- 4 キュウリ、トマト及びナスの整枝等の管理作業は、曇雨天時に行うと病原菌の侵入を招くおそれがあるため、晴天時に実施する。また、乱形果や病害果は早めに摘果し、着果負担の軽減を図る。
- 5 生育中の露地野菜では、ほ場が乾き次第中耕を行い、土壌の通気性を改善して、根の活性回復を図る。
- 6 育苗中の苗は、軟弱徒長を防止するため、かん水管理に注意するとともに、育苗鉢の間隔を広げて、通風及び採光の確保を図る。
- 7 今後作付けするハクサイ、ダイコン、キャベツ、ネギ等については、ほ場の土壌水分が適度な状態の時に耕うん等の作業を行い、は種及び定植が適期に行えるよう計画的に作業を行う。

Ⅳ 果 樹

- 1 園内外の排水路や明きよを点検・整備し、園内に滞水しないよう速やかな排水に努める。特に、排水不良園や水田転換園では、根の活力低下を防ぐため、排水溝を設けるなど、排水対策を徹底する。
- 2 収穫が終わっていない品目・品種では、果実品質の低下を防ぐため、着果状況を見直し、小玉果や障害果等を摘除する。
- 3 樹冠内部の受光環境及び通風の改善を図るため、リンゴでは枝つり、支柱立て及び新梢管理を行う。ナシ、ブドウでは枝が混みあっている部分の誘引、摘心、徒長枝の整理等を行う。
- 4 長雨や多湿により各種病害の発生が助長されるため、病害の発生状況及び気象経過に注意し、登録農薬による適期防除に努める。
- 5 着色期を迎える品目・品種では、反射マルチ等を使用し、着色促進を図る。また、リンゴ等では、着色を待って収穫すると果肉先熟を招きやすいため、果実の地色や食味等を確認し、適期収穫に努める。
- 6 裂果した果実、腐敗果及び発病果は速やかに摘除し、園外へ持ち出して適切に処分する。また、収穫時には選果を徹底し、腐敗果等の混入を防止する。

V 花 き

- 1 ほ場や施設内外の排水路及び明きよの点検・整備等を行い、ほ場内や施設内に滞水・浸水しないよう排水対策を徹底する。
- 2 日照不足の条件下では、灰色かび病、べと病、キク白さび病、疫病、炭そ病、軟腐病等の病害の発生が懸念されるため、周辺の除草、ほ場及び施設内の通風を妨げる資材の撤去、作物の不要な茎葉の除去等により、作物への通風を改善し、病害の発生しにくい栽培環境を整える。
- 3 登録農薬による適期防除に努める。降雨が予想される場合は農薬の登録内容に従い、必要に応じて展着剤を加用するなど耐雨性を考慮した防除に努める。感染源となる発病葉及び発病株は早期にほ場外へ持ち出し、ほ場内の作物へ感染しないよう適切に処分する。
- 4 施設栽培では、被覆資材の汚れを除去し、光線透過率の向上を図る。施設内に循環扇を設置し空気循環を促進するとともに生育適温にあわせた換気を行い、多湿及び日照不足による軟弱徒長を防止する。また、必要以上のかん水を避ける。
- 5 曇雨天が続いた後に急激に天候が回復し強い日射を受けると、葉焼けや萎れの発生を助長するため、遮光カーテン等で調節する等、天候の変化に注意し栽培管理を行う。
- 6 バラでは、弱光条件下で茎葉の軟弱化、花卉の退色、花の小輪化等の品質低下が懸念されるため、こまめに整枝するとともに、同化専用枝を適切に整理し、茎葉の受光環境の改善を図る。
- 7 育苗中の鉢物及び花壇苗については、鉢間隔を十分とり受光環境を改善し、軟弱徒長を防止する。また、曇雨天で根からの養水分吸収力が低下し、鉢用土の過湿により品質低下が予想されることから、かん水間隔を調整するなど適正な水管理を行い、根の活性維持及び生育の回復を図る。なお、底面給水栽培の場合は、適宜上部かん水を併用するなど根域の通風性確保に努め、過湿による根傷みの発生を防止する。

VI 畜 産

- 1 畜産施設及び家畜
 - (1) 雨が畜舎施設内に吹き込んだ場合は、敷料等の交換を行い、畜舎内を乾燥した状態に保つ。
 - (2) 堆肥舎やハウスかく拌処理施設は、雨水の流入や尿汚水の流出を防止するため、施設及び堆肥の適切な管理を行う。
 - (3) 水濡れ、土壌の付着などにより品質が低下した飼料は、家畜への健康被害が懸念される場合には給与を中止する。
- 2 飼料作物
 - (1) 飼料イネ・飼料用米については、「水稻」の項を参照する。
ただし、防除については農林水産省が発出している以下の通知を参考とする。
※「飼料として使用する粳米への農薬の使用について」
https://www.famic.go.jp/ffis/feed/tuti/21_658.html
 - (2) 長雨が続く場合は、機械による収穫調製作業が遅れ、湿害による生育不良を招きやすくなるため、排水溝を整備し、速やかな排水に努める。
 - (3) 気象情報に十分注意し、収穫作業を行う。また、サイレージ調製時には乳酸菌や糖蜜等を添加し、発酵品質の向上を図る。刈り取りに際しては、土砂等の夾雑物の混入防止に努める。
 - (4) ロールベールは、パレット等を利用して地面から離して保管するとともに、保管場所を高台へ変更することにより、保管時の浸水を防止する。